

独立行政法人 国立病院機構 栃木医療センター 様

医療用語も正確に認識するため、月間
400時間以上かかっていた会議やカン
ファレンスの文字起こしを大幅に効率化



導入前の課題

- 会議やカンファレンスの議事録作成に月間400時間以上の作業負担が発生していた
- 医療用語を含む複数人の会話を正確に記録するのが困難だった

導入後の効果

- 音声自動でテキスト化されるため入力作業が大幅に削減された
- スタンドアローン要約機能によるさらなる効率化にも期待

議事録作成にかかる膨大な時間と人手

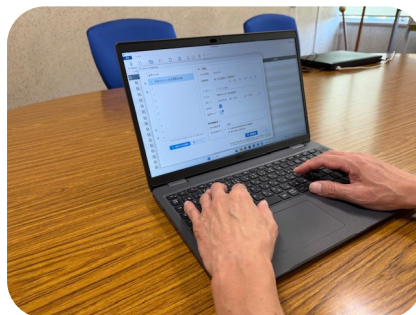
導入前は、ICレコーダーで録音した音声を聞きながら、パソコンで手入力して議事録を作成していました。会議だけでなく、カンファレンスの記録も同様の方法で対応していたため、担当者の負担は非常に大きく、月間で約20時間の作業が必要な担当者が20名もあり、合計で400時間以上の工数がかかっていました。これが日常的に発生していたため、何とか効率化できないかと模索していました。

医療現場に求められる精度と専門性

当院が求めていたのは、医療用語に対応し、かつ複数人の会話を正確に識別できるAI議事録ツールでした。「ScribeAssist」はその両方を満たしており、さらに国立病院機構の他の病院でも導入実績があったことから、安心して導入を決定しました。

音声をテキスト化するだけでも大きな前進

導入後は、「ScribeAssist」によって音声自動で文字起こしされるため、入力作業の負担が大幅に軽減されました。高性能なICレコーダーやスピーカーマイクの導入など、集音設備を整えたことで高い認識精度も実現しています。



▲ 実際に ScribeAssist を利用している様子

導入当初はクラウド型のAI要約機能しかなく、セキュリティの観点から利用を控えていましたが、2025年9月にスタンドアローン型の要約機能が実装されたことで、今後は議事録作成作業のさらなる効率化を期待しています。

**独立行政法人
国立病院機構
栃木医療センター 様**

**独立行政法人
国立病院機構 栃木医療センター**

サービス	ScribeAssist
業種	医療・介護
導入	2025年4月